



県内の鉢物生産者も多数出展 JFIトレードフェアで本県産鉢物をPR!

JFIトレードフェア2018秋 in FAJ—つなぐ、つくる、つたえるFAJ—

- 期日：10月13日(土) 8時30分～15時00分
- 場所：FAJ新館2階・3階
- 主催：株式会社フラワーオークションジャパン
- 内容：鉢物を中心とした展示商談会

■ 今回で23回目の開催、330ものブースが出展!

JFIトレードフェアは、株式会社フラワーオークションジャパン(以下FAJ)が主催する鉢物を中心とした展示商談会です。2005年の秋から開催され、今回で23回目の開催となります(今までに秋は13回、春は2010年から始まり9回開催)。

今回は全国から330ブースの出展があり、その内12ブースは今回が初出展でした。また、出展者の中には前日まで幕張メッセで開催されていたIFEXから引き続き出展している方も見られました。来場した花き業界関係者は657名で、生産者・業界関係者双方の関心の高さが感じられるイベントでした。開催時間は8時30分から15時まででしたが、会場内ではFAJから軽食の提供が行われ、来場者・出展者ともに開始から終了まで情報収集や商談に集中できるような環境が整えられていました。

本イベントは鉢物を中心とした商談会ですが、山梨県からは県が育種した切り花アジサイ新品種「ふじさんアジサイ“あかね”」の参考展示が行われていました。ブースには普及指導員等の県職員もおり、品種特性の説明や来年の本格出荷に向けた市場ニーズの調査を行っていました。



山梨県が育成した新品種の展示

■ 群馬県の生産者も多数出展し、積極的な商談が行われる!

群馬県からは、桐生市の「さかもと園芸」や中之条町の「登坂園芸」などの鉢物生産者(11ブース)とJA邑楽館林カーネーション研究会(1ブース)の全12ブースと多くの出展がありました。本イベント開始当初は、本県からもここまで多くの参加はなく「群馬アジサイ研究会」として出展を行っていました。しかし、研究会として参加するうちに、出展のメリットを感じて個人で参加する生産者が増えていき、現在のように多くの生産者が個人で出展するようになったとのこと。

各ブースでは、これから年末にかけて需要が増えるシクラメンや、来年の母の日に向けたカーネーション、アジサイなどの展示と商談が行われていました。カーネーションとアジサイについては、来春の出荷となるためサンプルの展示はありませんでしたが、ブースには多くの来場者が訪れ、生産者やJA担当者と情報交換を行っていました。

また、群馬県のブースはある程度まとまった配置となっていたため、出展した生産者同士でも活発な情報交換が行われていました。

JFIトレードフェアは、年2回(春・秋)に開催されています。このようなイベントは、生産者と買参人等の花き業界関係者が情報交換を行うことのできる貴重な場であるため、このような場を有効活用し、産地や生産者が積極的に情報を発信していくことが重要になってくると考えます。



本県生産者のブース



多くの来場者で賑わう会場の様子